

合の医療機関窓口での対応については、市内の医療機関に一層の注意をお願いする。

佐々木 貴史

安全・安心なまちづくり

市民の最大関心事は安全で安心して暮らせるかという点。①小学校への防犯カメラ設置について要望してきたが進捗状況は。地域安心安全情報共有システムによる市民への情報提供の内容の充実を。②防犯パトロールが実施されていない地域の対応について。

①防犯カメラを夏休み中に小学校全校に設置していく。常時監視が難しいのでセンサーと連動する方式でモニターは3基設置していく。②地域的には、約半分の地域で組織化ができていない。今後努力していく。

安全で健康な「食」について——朝食の大事さを子どもたちから

食育基本法が昨年7月に施行された。食をめぐる状況は各世代で問題を抱えている。①朝食抜きの子どもの割合と言われているが市内の実態調査を。②千葉県市川市の調査で子どもの3分の1が生活習慣病を注意との結果。狛江市での調査実施と食に関する指導を。

①食育推進計画の段階で検討していきたい。一中の進んだ例もある。何らかの形で取り組むたい。②検診単価が非常に高いが、検討していく。保育園では、給食物資規格表を

作成して食材の安全を確保するとともに年間カリキュラムを作成して食育を指導している。

市長の政治姿勢について

①過去の発言によると、アクションプランがなければ18年度予算は組めないはず。②改革本部でアクションプランの議題中、市長自ら「夢と希望を語る部分が見えてこない」と発言、市民説明と大きく相違しているが。③まちづくり総合プランは撤回の英断を。

①緊急行動計画・定員適正化計画等をベースにして、予算編成は何ら問題はなかった。プラン作成は並行して進めた。②「選択と集中」で、一緒に考えてほしいとの趣旨で各部課に問題提起したもの。③改訂プランの市民参加推進が希望あるまちづくりの保証になる。

利用者・行政双方にメリットのある、マイケアプラン作成支援を

ケアプランの自己作成(マイケアプラン)は、利用者の必要なサービスの精査や、制度の熟知・認知症予防・ケアマネ不足対策につながる。①パンフレット、広報への明記と、利用者への作成支援が必要と思うかが。②マイケアプランで幾らの節約になるか。

①介護保険推進市民協議会でも議論の提案をしていきたい。②17年度で見ると1件当たり9010円の節約。

策定中の障害福祉計画は将来的ニーズ把握と福祉ビジョンの明示を

池座 俊子

①地域での自立生活に欠かせないグループホーム・ケアホームの設置はどう考えるか。②障がい区分と利用量決定の違いは。③障がい児童の送迎などサービス低下のない計画数値目標を。④福祉作業所の法人化など自立支援法への対応について親切丁寧な支援を求めるが。

①必要性を感じている。②利用者、介護者の状況を総合的に判断する。③サービスの低下がないように努力する。④丁寧に分かりやすくやっていく。

ごみ減量をすすめるために市民、事業者の協力

①全国で年間300億枚のレジ袋が使われている。資源保護、ごみ処理費軽減のために、レジ袋の使用削減を進めるべき。ごみ組成分析結果と削減策は。②ペットボトルはリサイクルされるが、自治体の負担は重い。市の処理経費は。③事業所のごみ収集と処理単価は。

①組成分析では、3%がレジ袋である。スーパー店長会議・消団連等と協働して、マイバックを推進する。②処理



ごみ出し

費用4020万円。③1回3袋以上排出する事業所は、許可業者と契約。この場合、42円/kgの手数料と20円/kg程度の収集運搬料。(指定袋は37円/kg)

子どもが安全、健やかに育つために——市内組織、地域の連携を

①小中学生の学校内や通学中のけがに対する学校災害共済給付件数が25年間で1.7倍。要因は。②学校安全マップの危険箇所、改善を。③青少年育成委員会広報が中学生対象に居場所についてアンケートを実施。要望の多いグラウンドについて市の対応は。

①遊びの質が変わったことや身体を動かす機会が減り、生活習慣に影響を受けたものが大きい。②安全マップの現地確認をしていく。③市民グラウンドの開放は難しい。西和泉グラウンドの平日の午後の空いている時間をどういう形で開放できるか検討していく。

「わっこ」の当初の目的と現況、今後の方向性について

①平成14年10月に創刊され3年半経てどう変わったか。②市民に浸透していない「わっこ」について考えたことはあるか。③委託契約(予算700万円)の中身について問題があるのではないか。④広告収入はどこに入るのか。⑤記事の取り上げ方に問題があるのか。

①紙面をタブロイド版にし、月1回の発行とした。②楽しみにしている市民も増え、

徐々に浸透してきている。③市民協働の一層の発展を図ることから、NPO法人認証を前提とした。④事業者で収納する。⑤市民活動団体に関する行政情報は積極的に掲載している。

狛江市アクションプラン(やっと出てきた)の中身について

平成16年12月に閣議決定された「今後の行政改革の方針」を踏まえ、17年3月に総務省より通知を受けた「地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針」に基づいてつくられた狛江市アクションプランは本来集中改革プランなのに名称を変えた理由は。

5年間の行財政改革の計画と実施計画などの工程表として作成し、それらを総評してアクションプランとした。

中学校給食がいよいよ具体的に動き出したので、準備作業について

平成19年度・各校配せん室改修工事等平成20年度・弁当給食(4校一斉実施)・二中給食施設基本設計、実施設計へ

・一中の給食検討へ等と具体的に動き出した準備作業の中身は。

平成20年に全校でデリバリー方式の給食をスタートさせる。そのため、各校に食堂と小規模の調理施設を順次整備。まず、平成21年に第二中学校体育館と合築する方法で設置工事をする。今後保護者、学校等のコンセンサスづくり、業者選定等を進めていく。

鶴留 美紀

狛江市アクションプランについて——定員適正化計画について

①保育園は公立存続か、民間委託かが問われている。公立と民間委託の違いは何か。又市長の決断は。②学校教育と社会教育を統合する予定だが、生涯学習施策を市長部局へ移行することで将来における狛江市の生涯学習はどうなるのか。

①職員467人体制を目指す上で、保育園職員を削減せざるを得ない。保育サービスの向上とあわせ、その対応ができるなら公立で存続させ、それができなければ民間委託も考える。②生涯学習は社会教育を包含する概念を考えるので社会教育として支援を行いたい。

清水 信之

①プラン策定がおくれたことを含めて市長のリーダーシップに疑問があるが。②収入役の所見を伺う。③グラウンドデザインなき改革は成功しないといわれるがプランとの関係は。④「新しい公共空間」とは一体何を指すのか。

①狛江らしき、夢や希望が見えるように、実現の手法など、職員一丸の努力によりまとめることができた②計画づくりも大切だが、実行がなお重要③基本構想、基本計画がそれに当たる④行政中心から、地域の多様な主体と協働してサ-

ビス提供を行う仕組みなど。

市役所の形はどうなるか

①組織改革案の中に「新しい公共空間の戦略本部」としての市役所づくりはどこに示されているか。②新しい公共空間には、NPO文化の成熟が不可欠だから社会教育再編には賛成だ。ところで、市長は教育委員会解体論に反対ではなかったか。

①生涯学習分野で言えば法規等に基づき教育委員会に置かなければならないものを除いて市長部局で一体的に取り組む、こうして青少年関連事業等を一本化して推進するということが大ききところ。②教育委員会解体論に基づく組織改正案ではない。

シビルミニマム再構築が必要だ

花火大会復活など選択と集中が図られたと言っているが、事務事業評価、第三者評価がストップしたままで、シビルミニマム再構築が行われていないから恣意的な政策判断になっている。改革の目玉である保育園民営化の先送りは大衆迎合主義でありごまかしだ。

民営化しなくても、人件費削減など財政の問題と共働き家庭へのサービスとともに地域の子育て拠点としても頑張るといふ二つの課題がクリアできれば、公立保育園で十分対応できる。それができるか職場と議論し決定していく。